



# 加茂川中学校だより2018



京都市立加茂川中学校  
平成30年11月30日(金)

第11号 全国学力・学習状況調査  
分析

文責：校長 太田勝

## 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果と生徒の学力向上に向けて

平成30年4月に中学校では3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。今回は国語と数学と理科の3教科で実施されました。全国調査で明らかとなった課題や、これまでの取組の成果を学校・家庭・地域間で共有し、生徒の学習状況の改善や日々の学校教育活動に活かすことを目的として、分析した結果をお伝えします。

### ★教科に関する調査結果について（公立中学校3年生の平均正答率）

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
京都市	77	62	67	48	66
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

京都市教育委員会のホームページにおいても資料が掲載されていますのでご確認ください。  
【ホームページURL <http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000158413.html>】

### 結果の概要

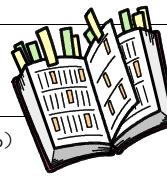
本校は、全国や京都市と比較した場合、理科を含むすべての教科において京都市の平均正答率よりさらに数ポイント高い結果となりました。

教科別に見ると、主として「知識」に関わる問題が出題されるA問題については、国語Aは、前年度と比較するとやや下降しているものの、継続して高い水準を維持しています。数学Aは前年と比べると大きく上昇しています。

主として「活用」に関わる問題が出題されるB問題についても、国語Bは、前年度と比較するとやや下降しているものの、無答率は低く、数学Bについては、昨年度と同程度の水準を維持しています。

### <設問別で結果の少し悪かったもの> 京都府の正答率と差があった出題の「趣旨」

国語A	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。 文脈を即して漢字を正しく書く。
国語B	質問の意図を捉える。（二人の質問の意図として適切なものを選択する） 相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く。
数学A	単項式どうしの除法の計算ができる。 反比例について、グラフと表を関連づけて理解している。 与えられた資料から中央値を求めることができる。（反復横跳びの記録の中央値を求める）
数学B	証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見出すことができる。 問題文に登場する生徒の行った計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる。
理科	濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できる。 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量のパーセント濃度のものを指摘できる。 風向の観察方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる。 太平洋高気圧（小笠原気圧）の特徴について、知識を身につけている。 化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで証明できる。 オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる。 アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けています。 発熱パックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できる。



### <「生徒質問紙」で「強い肯定」がやや低かったもの>

- ◆学校の規則を守っていますか。
- ◆いいじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか。
- ◆朝食を毎日食べていますか。
- ◆家で、自分で計画を立て勉強をしていますか。
- ◆家で、学校の宿題をしますか。
- ◆1、2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。
- ◆地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。

### <「生徒質問紙」で「肯定」が非常に高かったもの>

- ◆自分には、よいところがあると思いますか。
- ◆先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか。
- ◆将来の夢や目標を持っていますか。
- ◆家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。
- ◆家人の人と学校での出来事について話をしますか。
- ◆新聞は読んでいますか。

平成30年度の生徒質問紙では、それまでに比べて質問の数が大きく減少し、質問内容も従来のものとは変更されました。その中で「今の社会に求められる力」に関する質問があります。特に学習面では以下のようないくつかの質問があります。

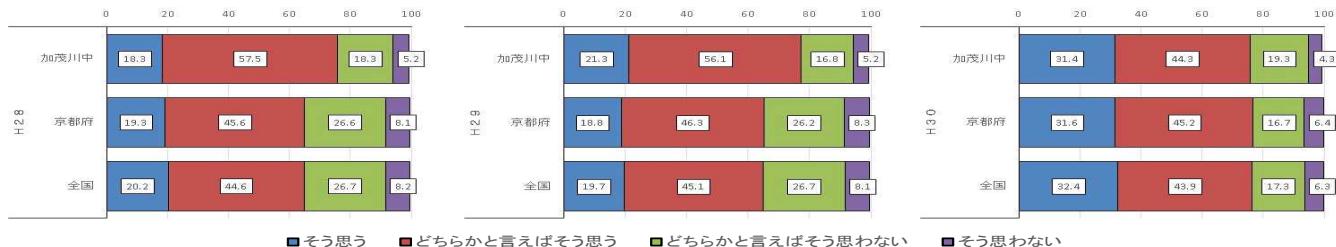
①「1・2年生のときを受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していました」と思いますか。

②「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」

これらの質問に意図されていることは「主体的・対話的で深い学び」につながる学びです。加茂川中学校では全市に先駆けて、平成28年度から29年度の2年間「主体的・対話的で深い学び」をテーマに研究指定を受け、実践を積み重ねてきました。そうした学びが現在、全国や京都市全体に広がっていることも今回の調査から明確になってきました。

★下のグラフは過去3年間の結果です。平成28・29年度は加茂川中学校の「肯定的回答」が高かったのが特徴ですが、今年度は全国も同程度となっています。

### 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



### 保護者・地域の皆様へ

京都市全体の平均正答率は、中学校では全国平均を上回り、理科は全国平均と同等の結果となりました。これは、子どもたちの頑張りと、PTA・保護者・地域や学校運営協議会等のご理解とご協力、教職員の熱意あふれる実践の成果と考えますが、子どもたち一人ひとりの結果には、それぞれ課題も見られます。学校におきましても、日々分かりやすい授業に努めていますが、全国学力・学習状況調査では、国語・数学・理科の学習成績（正答率）だけでなく、学習成績と生活の関係も調査されています。子どもたちの基本的な生活習慣と学習成績に特に大きな関係があるのは以下の6項目です。

①「学校の規則は守っていますか」 ②「毎日、同じ時刻に起きていますか」 ③「学校に持っていくものを前日か朝に確かめていますか」

④「相手や場面に応じてこはづかに気をつけていますか」 ⑤「近所の人に挨拶をしていますか」 ⑥「毎日、朝食を食べていますか」

子どもたちの基本的な生活習慣については保護者・地域の皆様のご理解とご協力が不可欠です。加茂川中学校では「小中一貫教育」の目標の一つに、「あいさつができる児童・生徒」を掲げています。ご家庭におかれましては子どもたちの放課後をはじめとする家庭での過ごし方について、振り返ってみてください。そして、子どもたちが夢と希望をもち、自分らしい生き方を実現できるよう、豊かな学びと健やかな育ちに向け、学校とともに子どもたちをあたたかく見守り、励ましていただければ幸いです。